



西林寺客殿と庭園 ライトアップ



西林寺だより

発行元
西林寺門徒総代会
広島県安芸郡坂町
坂東3-14-17
(082)885-0018
iタウンページ
西林寺

杖つえのことば
夢かなが叶かなうか
叶かなわないかで
人生の価値は
決まらない

門徒総代 研修会

以前から要望のあった西林寺門徒総代の研修会を12月2日(日)開催いたしました。



40名の総代の皆さまの参加があり、浄土真宗のみ教えを理解していただくための基礎として、お経本の最初にあります「浄土真宗の教章(私の歩む道)」についてと仏事作法について、住職より約1時間ご講義いただきました。

これからもこうした研修を続けて、門徒総代の自覚を新たに、浄土真宗に親しんでまいりたいものです。

研修終了後には改修工事の完了した客殿を見学しました。

仏教壮年会 あれこれ

西昭寺へボランティア

8月1日(水)有志で西昭寺庫裏の土砂撤去の作業を行いました。また、お見舞いもさせていただきました。

御講師を囲んで

10月例会は、永代経法座夜席の後、住職とご講師(光圓寺住職)平山智正先生を囲んで、座談会を行いました。先ほどお聞きした法話についての質問や今回の豪雨災害の件等いろいろな話題で、時間を忘れる程話が弾み、参加者全員これからの希望をもつていこうと感じたひと時でした。

境内 松の木剪定

10月18日(木)約1週間かけて境内の松の木剪定を行いました。境内には数本の松があり、どの松も長年の手入れで、素晴らしい姿をしています。



庭園の紅葉鑑賞会

今年は、予定していた「恒例の納涼ビヤガーデン」他、多くの諸行事が豪雨災害により中止となりました。そこで11月例会は、蓮華の会の皆さんといっしょに、改修工事の終わった客殿で「紅葉観賞会」を行いました。



仏教壮年会行事予定

- 一月十四日 御正忌前おみぎ
- 二月 安芸北組研修会
- 三月 安芸教区公開講座

法座案内

御正忌報恩講
一月 十五日(火)昼席より
講 師 十七日(木)朝席まで
法泉寺 神石郡神石高原町
川上順之師

御紐解法座
二月 十七日(日)昼席より
講 師 十八日(月)昼席まで
善福寺 鹿兒島市福山町
長倉伯博師

春季彼岸会
三月 二十日(水)昼席より
講 師 二十二日(金)朝席まで
浄心寺 呉市焼山
大江弘宣師

朝席7:00～・昼席13:15～・夜席19:30～

編集後記

豪雨災害から半年が過ぎようとしています。が、思うように復旧が進みません。皆さまのご心労は如何ばかりかと心からお見舞い申し上げます。
自分に何ができるかを問い返ししながら、「人間といういのち」をかみしめて、一日一日を大切に歩みを進めたいものです。

お知らせ

昨年7月の西日本豪雨に被災された皆さまには衷心よりお見舞い申し上げます。

この度の豪雨による浸水被害によって、法名を紛失したり、法名が分からなくなった皆さまはお寺にご連絡ください。法名は調べる事ができますし、本願寺に申請して新しい用紙に記してお渡します。

また、お経本が紛失して、一冊も残っていらつしやらない場合もご連絡ください。お寺より配布いたします。



聞思録(もんしるく)

ある年初に「今年こそと 思う心に 今はなし」という言葉に出会いました。確かに「今年こそ。今年こそ」と耳にしますが、そう言っている間はまだ何も始めていません。今という瞬間を生きていないということではないでしょうか。

また、未来に向かって夢や目標を掲げて努力することは大切ですが、その夢や目標に至る過程をどう意味づけするかの方が、実はより大切です。もし今日の努力(過程)が夢や目標の達成のための手段であると考えるなら、夢や目標が叶わなければ今日の努力の意味が見い出せなくなります。その努力こそ次の糧になるといっても、それ自体の意味より、

段として浪費して「年ばかり取った」と感じる嘆きへの問いかけではないでしょうか。仏教はそれを「空過する人生(空しい人生)」と教えてくれます。

夢は叶わなかったけれど、家族の理解や励まし、周りの協力や支えがあった「おかげ」で、この怠け者の自分が頑張ることができたという視点に眼を向けると、見落としがちになっていた大切なものに気づかされます。

ある哲学者は「成功と幸福とを、不成功と不幸とを同一視するようになって以来、人間は真の幸福が何であるかを理解し得なくなつた」と語っています。成功までの過程は、目的のための単なる手段ではなく、過程こそが喜びであり、幸せであると受け取るいのちを生きるこそ大切なのです。

「ご苦労さま」といいますが、これは「苦労」の上と下に「御」と「様」という尊敬語をつけて、苦労させていただいた「おかげ」で大切なものに出遇えたという感謝をあらわした言葉です。今日を手段としないで、今日の結果として、噛みしめ、喜び、感謝する歩みとする。それをみ教えを依りどころとし、日々お仏壇を大切に生きる中に、心を育てて実現してゆくのです。

そこに「夢が叶うか 叶わないかで 人生の価値は 決まらない」をうなずく世界が開かれてくるのです。

未来の成功にこそ、一番の満足(幸せ)があるという思考になつてしまいます。

子どもたちが野球やサッカーボールをして遊んでいるのは、上手くなるという未来への手段としてやっているのではありません。ただそのこと自体が楽しいからです。今という瞬間を楽しんで生きているのです。

お経本の初っ端に「人身受け難し」という言葉があります。これは、生まれ難い人間として生まれてきたけれども、本当に「人間」といういのちを日々生きているのか、「今年こそ」とか「来年こそ」と、今日を疎かに手

「ご苦労さま」といいますが、これは「苦労」の上と下に「御」と「様」という尊敬語をつけて、苦労させていただいた「おかげ」で大切なものに出遇えたという感謝をあらわした言葉です。今日を手段としないで、今日の結果として、噛みしめ、喜び、感謝する歩みとする。それをみ教えを依りどころとし、日々お仏壇を大切に生きる中に、心を育てて実現してゆくのです。

そこに「夢が叶うか 叶わないかで 人生の価値は 決まらない」をうなずく世界が開かれてくるのです。

5時の鐘撞き

西林寺では毎夕5時の閉門時に梵鐘を撞きますが、最近では多くの子供たちがやってきて鐘を撞いてくれます。

梵鐘は集会鐘といい、法要などの予鈴として撞きますが、除夜の鐘を始め、朝夕の時報や非常時(火事等)の知らせにも用いられてきました。しかし、本来は単なる時報ではなく、仏法に自身の生活を問い訪ねる思いを新たにす清浄な音色を奏するものとして貴ばれてまいりました。

アジア太平洋戦争時の金属類回収令により、一部の例外を除き、数多くの梵鐘が供出され、壊された鐘の多くが溶解され、日本の鐘の9割以上が戦時中に失われました。西林寺の梵鐘は、この時に供出を免れた数少ないもののひとつです。毎夕5時に7回ですが、誰でも撞けますので、どうぞお越しください。



蓮華の会

10月16日(火) 永代経法座昼席の後、門信徒会館において「お寺カフェ」を開催しました。

お参りされた皆さまに手作りケーキとコーヒーで和やかなひと時を過ごしていただきました。



仏教婦人会行事のご案内

- 一月十四日(月) 御正忌前おみがき
- 二月十一日(月) ダーナの日
- 三月四・五日(月・火) 念仏奉仕団本山参拝

中央仏教学院通信教育同窓会

11月4日(日) 第21回坂分会総会を西林寺本堂で行いました。ご住職のご法話を聴聞し、総会を行った後、意見交換会を行いました。ご法話にもあった「このような大災害時こそ、真宗門徒として真価が問われる時」であることが話題になりました。

仏教婦人会 あれこれ

仏教婦人会主催報恩講

11月21日(水)から23日(金)まで、住職をご講師に、報恩講法座が勤まりました。

この度の豪雨による被害の爪痕が痛々しく残る中ではありますが、初日には約100人の皆さまにお参りしていただき、前々日から準備してきた手作りのお齋を召しあがっていただきました。また、ご住職のご法話を聴聞させ



ていただき、宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲びつつ、浄土真宗のみ教えの素晴らしさ、そして「報恩」とは、まず私のみ教えを喜ぶ身になることだということに、改めて気づかさせていただくご縁となりました。



西昭寺へボランティア

7月の豪雨で大きな被害を受けた小屋浦の西昭寺へ9月10日(月)と18日(火)の2日間、有志でボランティアに行きました。

お寺の1階の天井近くまで流れ込んだ大量の土砂は、多くのボランティアの人達によって除去されました。一日目は建具の隅々から出る泥を何度もとり除きながら清掃をしました。一週間後には増員して清掃と消毒を行いました。

大変な被害状況の中、できたのは僅かなことですが、これからも少しずつでもご支援できればと思っています。また、お見舞いもさせていただきます。

